



Interview

平戸図書館
永田記念図書館
館長
篠崎 まゆみ

あらゆる人のための図書館に

平戸図書館新館オープンから1年以上が経過し約18万人が来館されています。集中して読書したり、雑誌を見てくつろいだり、小さな子が真剣な表情で絵本を選んでいる姿など、それぞれが自分なりの図書館利用をされているのを見て、市民のオアシスになりつつあると嬉しく感じています。その中でよく聞くのが「もっと近くにあればいいのに」という声です。建物を動かすことはできません。しかし「距離感」を縮めることはできるのではないのでしょうか。皆さんの身近に図書館サービスが受け取れる小さくても居心地のいい空間を点在させることができたらとも思っています。一方で、サービスにはコストが必要です。限りある税金という大切な財源をいかに効率よく活用できるかも大事な視点です。

今年度から、平戸図書館が中央図書館としての役割を担うにあたって、あらゆる人に生活を豊かにする情報サービスを届けるために努めていきます。

9月18日「いきつき日曜白月市」へ初出動



モーのすけ号に約350冊のいろいろな種類の本を積み込み、いざ出動!モーのすけ号の前にコンテナにつめた本を並べ開店しました。見慣れない珍しさもありたくさんの人から声をかけられ、貸出や予約の受け付け、市内共通で使える利用カードの登録、生月図書室で返却もできることを説明しました。並べている本を「買いたい」と言われる一コマも。

特集

待つ図書館から飛び出す図書館へ

～モーのすけ号が市内全域へ図書館サービスをお届けします～



モーのすけ号

平戸市ふるさと納税を財源として、平戸市立図書館で購入しました。今後、出張図書館として市内各地の公民館やイベント会場などへ出かけていきます。



本が活発に動き出した

市内にある平戸図書館、永田記念図書館の2つの図書館と南部、生月、田平、大島の4つの公民館図書室は図書館のネットワークでつながっていて、どこでもどの図書館(室)の本でも借りて返却できます。昨年8月に平戸図書館が新しくオープンしたことで、本が活発に動き出し、順調に利用も伸びてきました。しかし、利用者にとって、まだまだ行きたい図書館(室)への交通手段がなかったり、遠距離であることなど、利用しにくい環境があります。

そこで、市内全域へ本や図書館サービスを広げようと、今年度新たに「すみずみまで本を届ける事業」がスタートしました。



読書環境を市内全域へ

市内全域の読書環境を整え、本とサービスをすみずみまで届けるために、身近にある図書館(室)を中心として地域にネットワークを広げることとしました。また、子どもたちにとって、もっとも利用しやすい学校図書館も大事です。

最初に地域の拠点となる公民館図書室や学校図書館との連携や支援を進めています。

また、保育所、福祉施設、新たな

地域のサービスポイントなどに、配本や貸し出し・返却・予約資料の受け取りなどのサービスを届けます。

さらに、子育て支援、高齢者支援、産業支援などの要望に応じて出張図書館を行い、研修会、講座、サークル活動などが集まる場所へ、目的に合わせた本を選んで展示、貸出をし、その後の図書館(室)の利用について案内します。

まずは身近に図書館を感じてもらえることを目的に、これからも市内各地の公民館や各種イベント会場などへ出かけていきますので、イベント会場などで見かけたら、気軽にお声かけください。



平戸図書館でゆっくりとした時間を過ごしませんか。みんなが“来らず”のを待っています。

公民館図書室や学校図書館だけでなく、平戸図書館にも足を運んでみませんか。図書館と聞くと、閉鎖的で静穏な雰囲気の本を借りるだけの場所というイメージがありませんか。平戸図書館は、明るい日差しが差し込み、平戸瀬戸を望む絶好のロケーションです。また、本だけでなく、新聞、雑誌、視聴覚資料などさまざまなジャンルの本を取りえています。大人だけでなく、絵本の読み聞かせなど小さい子どもたちも楽しめて、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。ぜひご利用ください。

募集しています(無料送迎バスで図書館へGo!)



平戸図書館へ行きたいけれども、交通手段などの問題でなかなか行くことができない人のために無料でマイクロバスを運行します。(図書館へCOLAS事業) この機会にぜひご利用ください。

◆バス利用要件

- ・15人以上で構成する団体
- ・平戸図書館で開催するイベントまたは図書館見学に参加を希望する人・団体

◆申し込み先 平戸図書館

Tel.22-4017 FAX22-3151

※日程についてはバス手配の関係上、ご希望に添えない場合があります。

★臨時便のご案内

11月26日(土)、27日(日)に開催する「第2回COLASまつり」において、中南部・生月・田平方面に臨時便を運行します。このバスは、団体に限らず個人でも利用できますが、事前の予約が必要です。ただし、当日空席がある場合は、予約なしでも利用できます。(停留所、時刻表などは市ホームページに掲載しています)



▲9月10日、生月学童保育所「生きっくらぶ」が送迎バスを使って平戸図書館へ来館し、おはなし会や体操教室などを体験しました。

COLASバス利用社会実験実施中

(~平成29年1月31日まで)

未来創造館では、平戸棧橋から未来創造館までの区間、期間限定でバス運行を行い、利用状況などを調査しています。

1日5便運行し、片道大人150円(小児・障がい者割引80円)ですので、雨の日やフェリー利用者などお気軽にご利用ください。



▼バス停留所



公民館図書室へ

図書館から遠くても近くの公民館図書室で本の予約・貸出・返却が可能なのはご存知でしょうか。今回さらにネットワーク強化のため、図書館司書が定期的に訪問し、相談やアドバイス、本の入れ替えをはじめました。数が少ない図書室の本を補充することもできます。利用者からの「時代小説や大活字本がほしい」などというリクエストを受け、次に届ける本の選書にも反映させていきます。

また、大島村公民館図書室が9月11日にリニューアルオープンした際には、図書館から引越しや配架作業のお手伝いをして、明るく見やすい配置や雰囲気盛り上げる飾り付けを心がけました。図書室の本だけでなく、市内各図書館(室)からも本を取り寄せて、ゆっくりと読書できる環境を整えました。



学校・学校図書館へ

学校図書館への支援の一環として、今年度は、まず山田小学校・田平北小学校・根獅子小学校・志々伎小学校の4校と、度島・大島の学校図書館へ図書館司書の定期的な巡回を開始しました。

県内の自治体でも、読書量が多い平戸市の子どもたちは、本当に本と仲良しです。各学校にモーターのすけ号が到着すると、子どもたちが目を輝かせて駆け寄ってきます。



▲モーターのすけ号が到着すると、子どもたちが駆け寄ってきます

本をつなぐ

子どもたちの中には、初めての図書館体験が学校図書館である場合も

連携を深める

子どもたちが、自ら学び、考え行動する「生きる力」を育てるために、学校図書館は重要な役割を担っています。平戸市立図書館は、公民館・学校との連携を深め、学習の拠点となる図書室の充実を図り、子どもたちの読書活動を支援していきます。



の支援をしています。また、子どもたちの図書委員会活動に参加したり、一緒に給食を食べながらおしゃべりするなど、子どもたちと本をつなぐお手伝いをしています。市内の全学校に配置されている学校図書館支援員と協力して、今後もよりよい形で学校へ

子どもたちの本に対する世界を広げたい

志々伎小学校では、子どもたちが本に対してとても興味があり、1人あたり年間約170冊ほどの読書量です。しかし、自分が読みたい本が中心で、難しい本はあまり読んでいないのではないかと思います。今後は、図書館の人と連携して、難しい内容の本でも読んでみたいという気持ちにさせる「ブックトーク」などの推進を図り、子どもたちの本に対する世界を広げていけるようにしたいと思います。

Interview

志々伎小学校

校長 村田 俊郎

